

オリンピックの開催もあり、日本でもインバウンドが注目集めています。先日、ノルウェーに行くチャンスがあり、フィヨルド観光を楽しんできました。なんと、ノルウェーの外務省のホームページに、フィヨルド観光ツアーの宣伝があり、ここから入ると、現地のツアーのプロモーションビデオが見られる。さらに、日付を入れると、電車、バス、船の予約、座席の確定ができる。当然、遅れなどが発生しても、乗り継ぎは便宜を図っていただけ、驚くほど簡単に手配ができました。決済もクレジットカードで完了。ノルウェーはクロールといわれる通貨ですが、両替することなく、クレジットカードで、屋台でも支払いができる。税率が高く、ペットボトルの水は約500円という物価高ですが、国民の教育や医療等の費用を無料にして国民に還元している。水産業の輸出と、インバウンドで、海外からのお金を持ってくる仕組みがすごい。今回は、JASAの国内外の窓口となっている事業推進本部について掘り下げてみます。

事業推進本部は、私が担当です。2018年4月の赴任後、協会として長期計画を立案、推進をミッションとして活動しました。まだまだ、まとまった動きが取れていません。

JASAの課題として、2019年度は、

- ①官、国内外企業、学生に対してJASAブランド・ロイヤリティの向上
- ②地方からの情報発信による支部・本部間、支部間連携強化と地方の活性化
- ③国内外を問わず社会基盤となる人脈形成の助成

の3点を中心に推進しております。

これらを実現するために、5つの委員会で、年間の運営を遂行していただいています。“組込みシステム”の意味するところ、ブランド力など、まだまだ不足しているなか、危機感を持って運営しております。IT業界、クラウドなど叫ばれた時代から、これからは組込み業界が中心になってくれればと考えています。



国際委員会  
廣田 豊氏

情報技術開発入社、組込みシステム(主に電子回路設計～検査、放送システム開発)担当

EUL本部長を経て2010年TDIプロダクトソリューション代表取締役就任

2010年より当協会理事、2012年より国産委員会委員長に就任

オフショアに始まり、現在はオープンインベーションと、ニーズが変わっています。グローバル化は、待ったなしの状態です。国際委員会では、会員の方々の啓発と、世界に目を向けていただくために、視察を計画しております。昨今は、政府も力を入れている海外人材採用に関しても、インドをはじめ、スリランカ、フィリピン、インドネシア・・・などなどの人財斡旋専門家を呼んでの講演会なども実施して、皆様のグローバル化のご支援をさせていただいております。

毎年、20名規模の海外視察を計画しています。今年は、ベトナムホーチミンです。プログラムコンテストなどでも、優勝者を多く輩出しており、優秀な人財が期待できる国です。従来の人財派遣の会社、組込みOSの専門会社、AIのエンジンを開発している会社まで、ここ数年で大きく様相を変えており、認識を変えさせられました。

また、海外での事業スタートや、アライアンス先、事業の進め方などのよろず相談も個別に受けております。ぜひ、困ったときは、ご相談ください。

- ①海外視察(今期はベトナムホーチミン)と海外への情報発信
  - ②会員様への情報発信(グローバルフォーラム、機関紙等での情報発信、HPへ資料掲載)
  - ③海外人材活用推進(各支部でのセミナー開催)
- 上記取組により当協会及び会員様のグローバル化を推進しております。



協業推進委員会  
佐野 勝大氏

兵庫県出身


日本IBM(株)にてSE/PM、マイクロソフト(株)にてEmbedded Windows製品マーケティング責任者担当、コンシューマ戦略担当業務執行役員/Microsoft Corporation Directorなどを経て、(株)ユビキタスAIコーポレーション代表取締役社長。現在は、サイバートラスト(株)副社長執行役員として、OSS、サイバーセキュリティ、電子認証局を軸としたIoT事業の立ち上げを担当。キャリア一貫で年IT・組込みソフトウェア業界一筋。2015年より当協会理事、2017年より副会長に就任

JASAにおいて、会員勧誘、地方活性化などを戦略的に推進しています。今まで、北海道、北陸、九州、名古屋、広島とJASA活動が思うように浸透していない地域で、まずは、セミナーから活動を敢行していただいている特攻隊です。この効果は絶大で、名古屋では、セミナーが好評で、ET名古屋が実施される運びとなりました。九州では、モノづくりフェアが定番となり、ET福岡展が開催できるかというほど盛り上がっています。現在は、北陸をターゲットに盛り上げと画策しております。

①地方での支部連携、自治体、団体との連携を通じた支部会員への情報提供と活動



の活性化、JASAの認知度の向上  
 ②ビジネスマッチングの機会の提供  
 ③協業推進セミナーの実施(2019年度は九州、金沢、広島)



**広報委員会**  
**横田 英史 氏**

大阪市生まれ、石川県金沢市出身  
 川崎重工業で組込みエンジニアを4年半経験の後、日経マグロウヒル社(現在の日経BP社)に入社。日経エレクトロニクス副編集長、日経コンピュータ編集長などを経て執行役員 制作・システム担当(CIO) 兼 コーポレート担当、日経BPコンサルティング 取締役、日経BPソリューションズ 社長を最後に退任。2018年11月にETラボを設立、同月JASAに入会、現在に至る。2019年6月JASA理事、広報委員長。

JASAの顔であります広報委員会です。今年度から、富岡様から、日経OBの横田様にバトンタッチし、新しいことにチャレンジをしています。定番のBulletin JASAはもちろん、特に懸案でしたJASAホームページの刷新を計画しています。横田様は各委員会、WG等にも参加され、情報収集に努められています。広報委員会は大変幅広く活動しています。イベントや、様々な活動に関する情報をご提供していただければ幸いです。  
 ①機関誌Bulletin JASAの発行

②JASAホームページのリニューアル(動画ページの拡充を含む)  
 ③JASAコンテンツの有効利用とホームページを活用したJASAの認知度向上・会員企業のサポート



**交流促進委員会**  
**橋本 知宙 氏**

2006年に株式会社ハネロン代表取締役役に就任し、無線ネットワークを利用した機器開発やシステム開発に従事。2017年より当協会理事、2018年に交流促進委員会委員長に就任。

JASA発足以来、若手経営者研究会の実施は常に課題でした。経営者としての教育もありますが、この業界では、自分の得意とする分野と、周りの得意とする分野の協業体制が、会社の存続のかなめであり、若手経営者にとって、これらの信頼感ある人間ネットワーク構築が大変重要です。年に数回ですが、若手経営者研究会を実施しています。ぜひ、奮ってご参加ください。

一方、若手特に学生に対して、交流祭典を実施しており、学生と企業の橋渡しを企画実施しております。会員企業からは70名を超える参加があり、盛況です。今後、地方展開もしていきます。ぜひ、奮ってご参加ください。  
 ①求人支援(交流祭典の開催による会員企業と学生の交流。今年度は近畿と九州で実施。)

②経営幹部候補生向けセミナー(グループワーキングによる他社との交流)

**政策提案委員会** **武部 桂史 氏**

東京都出身  
 日立製作所に入社、8ビットPCのROMベーシック(ビルゲーツ氏のコードを移植)、その後、PC、PDA、携帯電話、カーナビなどの開発、製品企画、事業企画を経験し、日立産業制御ソリューションズに移籍、2018年4月より、JASA専務理事に就任

2018年度から発足し、特に経産省殿との情報共有、JASAからの情報発信を心掛け推進しています。そのミッションは、①経産省殿との情報交換、②経産省殿勉強会への参加、③情報発信をミッションにJASAとして不得意な政治の世界との橋渡し役です。経産省殿のメンバーは、2年サイクルで人事異動があり、人間関係を継続的に構築することが難しいですが、昨今では、組込みDXと銘打って、JASAの要望を経産省殿に届けております。

**あとがき**

“デファクトスタンダード”という言葉で、簡単に片づけて時代が流れていますが、以前、大型計算機の時代から、ミニコン、ワークステーション、パソコンと高性能化、小型化が進む中で、人材が不足すると、大騒ぎをした時代が1980年代です。しかし、マイクロソフトとインテルのプラットフォームをIBMが世界に広めた結果、まったく、人手不足が現実化することはなかった。携帯電話の開発では、1000人規模1年の開発があたりまえでしたが、Androidのデファクト化で、3か月で新機種が開発できるようになってしまった。そして、日本から、パソコンも、携帯電話も業界として衰退してしまいました。

クラウドシステムが世の中で叫ばれ、こぞって、データセンターを作りだしたが、データセンターで必要とする人員は、数名で、かつ、投資産業で、回収に時間がかかる。一方、アマゾンや、マイクロソフトのクラウドは、世界を相手にしており、規模が大きいため、サーバー機は自家製独自アーキテクチャで、セキュリティ対策がほとんどいらない。税金は、すべて、米国に持っていかれる。

自動運転で組込みシステム業界は大変活況であるが、ドイツでは、デファクト化、企業の囲い込みが盛んに進んでいる。MaaSなどが進むと、車との通信が標準化するので、当然の動きです。クラウドも、自動車も日本から消える日が来るかもしれない。

日本を取り巻く環境は、歴史的にも厳しく、将来への戦略的な対応が必要な時期です。